



保険者国保事業紹介

京都花街国民健康保険組合

平成 29 年 4 月 1 日現在

被 保 険 者 数 (<small>人</small>)	お茶屋	72
	芸舞妓	232
	従業員	92
	家 族	82
	計	478

(後期高齢者及び一部の法人を除く)

京都には祇園甲部、宮川町、先斗町、上七軒、祇園東の五つの花街があります。これを総称して五花街（ごかがい）と呼んでいます。私たちの業界に従事する者は9割までが女性ですが、日本が誇る舞踊や邦楽など伝統ある芸能文化の向上に努め、その伝承者としての役割を果たしてきました。春や秋には華やかな、を（お）どりが各花街で催されます。

しかしながら、昭和の最盛期には京都で 3000 人ともいわれた芸舞妓の数は昭和 35 年の花街国保設立時には 1200 人、そして現在では 230 人台までと大幅に減少しています。被保険者数も設立時（約 2900 人）の六分の一近くまで減り 500 人台を割りました。

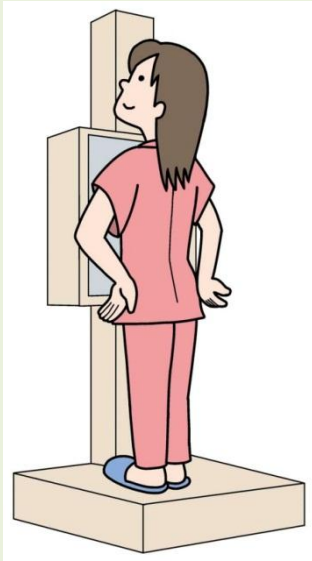
小規模の組合ですが、主な保健事業としては集団検診、半日人間ドック、特定健康診査、郵送検診、母体組合健康管理補助、インフルエンザ補助、無受診者の表彰、禁煙外来の補助などを行っています。

■ 集団検診 ■

職場と生活の場所が同じということで、現在四花街で各歌舞練場を利用して集団検診を実施しています。前日遅くまでの仕事、当日の昼の宴会（席）、遠出の仕事などで受検できない人もいますが約半分の人が参加しています。



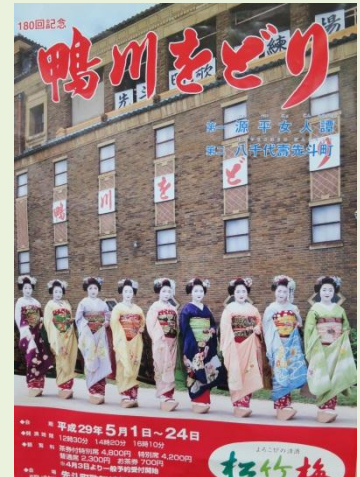
芸舞妓は午前中は舞や芸のけいこ、午後3時ごろからお化粧などの準備をし、仕事は基本的に午後6時ごろからです。売れっ子は遅くまでお客様のお相手をし、床に就くのは午前になることもあります。仕事柄、食事は昼、夕（宴席）、夜中、またアルコールがついて回ります。ですので「明日は健康診断」ということでお酒などを自制するのはなかなか難しいといえます。集団検診の当日は「きのうは楽しかった」「遅くまで仕事だった」「飲みすぎた、食べすぎた」といった会話で話が弾みます。



高いようです。

■半日ドック■

半日ドックは、集団検診を実施している（併用はできない）ことや時間がとれないなどの理由で、他の国保組合と比べると受診率は低いです。そんな中で脳ドックの受診率は高いです。飲み過ぎによる？頭痛などの症状を体験することが多いためなのか、よく分かりませんが、脳ドックに対する関心は



■特定健診■

特定健診の受診率は44・3%（平成28年度）で京都府平均より高いのですが、特定保健指導の実施率は極めて低いのが実情です。集団検診などの連絡等は基本的に各花街事務所を通して行うことになっているため、本人に直接会うことはほとんどありません。また、みなさんとにかく忙しい。各健(検)診の受診者を増やす工夫や、被保険者の健康を守るための受診後の保健指導などをどのように進めるかが悩みのたねです。

■小さな組合の大きな苦悩

被保険者数の減少、長期入院患者、高額医療患者、補助金の大幅な削減の影響が大きく平成28年度に保険料を値上げしましたが、見通しが甘く、年間保険料収入を超える単年度赤字になりました。保険料をさらに値上げするか、数年後に組合を解散せざるをえないのか？…。苦悩は大きく、今後の組合運営はさらに厳しいものになりそうです。

